

## 情報端末を用いた学習支援事例研究プロジェクト【状況報告】 (魔法のふでばこプロジェクト)

京都市立総合支援学校（地域制4校）

京都市立総合支援学校の地域制4校（北総合支援学校、東総合支援学校、西総合支援学校、呉竹総合支援学校）では、「児童生徒の学習支援のための情報端末活用のあり方」を共通テーマにして、各校において実践事例研究に取り組んでいる。取組をはじめて3ヶ月あまり経過した現在の取組状況を、各校ごと以下に報告する。

### 《京都市立北総合支援学校》

#### 1：今年度のiPadの活用目標と活用状況

北総合支援学校では、自立活動「コミュニケーション」の学習において、「個別の包括支援プラン」に基づいた指導を行う上で、iPadを使用することにより効果が上がると思われる児童生徒の学習支援に用いている。肢体不自由のある児童生徒の指導・支援を始めてみると、『児童生徒が一人で操作するのは難しい』場面に直面した。そこで、児童生徒の障害の実態に応じて、iPadを置く台を自作し、一人でiPadが操作できるようにした。アプリを使って、指導者とのコミュニケーションが少しずつとれるようになってきている。



iPadを置く台を自作



一人で操作できるようになった。指導者が手などで支える支援は不要。



「かなトーク」練習中。  
50音の配列なので、とても入力が簡単！

#### 2：現在活用しているアプリケーション（使用頻度の高いもの）

##### (1) 「Drop Talk」

- ・iPad版VOCA。いろいろな場面に応じたキャンバスを作って、児童生徒のコミュニケーション力の向上に使用している。
- ・画像を取り込んで、オリジナルのシンボルも簡単に作れる。
- ・キャンバスが一人分しかないのが残念。



(2) 「かなトーク」

- ・言葉は理解できるが、発語ができない児童生徒や不明瞭な児童生徒のコミュニケーションツールとして使っている。
- ・文字が50音順に並んでいるので、入力がとても簡単。小学部の児童も、すぐに入力が速くなった。



(3) 「I Love Fireworks Lite」

- ・タップ、ドラッグの練習に使っている。
- ・とても美しい花火が簡単に打ち上げられ、児童生徒も喜んでいる。音も迫力がある。
- ・初めてiPadに触る児童生徒に、導入として使っている。



(4) 「Talking Tom 2」

- ・発語の練習に使っている。自分の声が猫の声になってすぐに返ってくるので、児童生徒もより大きな声を出そうと頑張っている。



## 《京都市立東総合支援学校》

### 1：今年度のiPadの活用目標と活用状況

本校ではiPadを学校生活の中に組み込んで学習効果を高めると共に、iPadの活用を取りかかるとして社会とのつながりを広げ、より自立した豊かな生活を送るための力を身につけていくことを目標とした。様々なアプリを使った個別学習の場面においてその効果が認められる。特に学習系のアプリや音楽系のアプリは学習場面に組み込みやすく、効果が高いものが多かった。3G回線を活用した取り組みを行っていくことを今後の課題としたい。

### 2：現在活用しているアプリケーション（使用頻度の高いもの）

(1) 「ひらがなぞり」「もじルート」等

- ・操作方法をすぐに覚え、一人で学習に取り組める。休憩時間などにも自分から取りかかる。
- ・字がはみ出した時はアプリの音の合図で気付き、お手本を見て、再度書きなおす。
- ・特定の文字をアプリで学習→プリントで確認という流れを繰り返す中で、上記の課題に対して進歩が見られた。

(2) 「空想どうぶつ」

- ・操作方法是すぐに覚え、一人でできる。休憩時間に自分からやりだすことも多い。
- ・自分や他の人が作った動物を閲覧する時間も設けたが、できあがりにはあまり興味を示さない。

(3) 「finger piano」

- ・操作方法をすぐに覚え自分で操作している。
- ・知っている曲に興味を示し、演奏できることを喜んでいる。
- ・指導者が生徒の演奏に合わせてキーボードで演奏することで合奏することができる。

④ 「Fruit ninja」等ゲーム系アプリ

- ・それぞれ休憩時間等に自分からやりたいと申し出て一人で楽しめた。「Fruit ninja」などは対戦形式で友達や指導者とも楽しんでいた。
- ・一部のアプリには知育的な効果があるようにも思う。

⑤ 「Lotus」

- ・タイムタイマー代わりにセットしておくことで目標の時間安定して活動に取り組んでいる。

## 《京都市立西総合支援学校》

### 1：今年度の iPad の活用目標と活用状況

『特別支援教育における ICT 機器活用の可能性を探る』を iPad の活用目標としてあげた。iPad を活用する土壌づくりとして、校内グループ研修『情報教育の活用』（構成 21 名・年 12 回）を立ち上げ、並行して全教職員対象として iPad の貸出を行っている。8 月末現在の児童生徒の活用状況は、6 ケース（小学部 3・高等部 3）・12 名（小 7・高 5）である。このうち 5 ケースは毎週決まった日時に活用されている。指導者は担任・ティーチングスタッフが行っている。

### 2：現在活用しているアプリケーション（使用頻度の高いもの）

- (1) 「ひらがな・カタカナ・数字・お絵かきなど」の学習アプリ
  - ・タッチが簡単にできるので楽しんでいる。
  - ・操作方法もすぐに理解し、自分で勉強を進めていくことができる。
  - ・ゲーム感覚で、自分で勉強を進めていくことができ、操作方法もすぐに覚えることができる。
- (2) 「声の出る絵本」「リズム」などの音声アプリ
  - ・面白い音が出る。自分の好きなキャラクターが出るのを注視する。
- (3) 「打ち上げ花火」「いないいないばあ 無料版」「iLove Fireworks Lite」
  - ・HDMI でテレビに投影し（iPad 2）、3 人で見える。椅子に座ってテレビの絵本を注視し楽しんでいる。
  - ・打ち上げ花火のソフトでは児童が指で操作するだけで花火が上がるので、興味を持って操作し楽しく見ている。
- (4) 「YouTube 動画」「ゲーム感覚の学習ソフト」など
  - ・知っている曲が出たり、自分の好きなキャラクターが出たりするのを注視している。
  - ・複数の生徒（3 人）が頭を突き合わせて、順番に操作して一緒に楽しんでいる



## 《京都市立呉竹総合支援学校》

### 1：今年度の iPad の活用目標と活用状況

子どもたちの主体的な活動を目指し、本校支援部の PT・ST と京都市の ICT 支援員の助言を受け、姿勢面、コミュニケーション面など色々な角度から改善を図りながら、iPad の活用を行った。また、

校内で取り組んでいる「教育活動充実プロジェクト」とも連携し、iPadの活用を進めた。

今後、その助言とiPadの簡単な操作性を活かして、子どもたちが自ら動き、主体的に参加できる活動や集団での取組へと広げていきたい。

## 2：現在活用しているアプリケーション（使用頻度の高いもの）

### (1) 「i 文庫 HD」

- ・スライドやタッチで本をめくることができる。
- ・これまで読んでもらっているだけだった絵本をデジカメで撮って本として入れることで、慣れ親しんだ本を簡単な操作をし、自分でめくって進めることができた。

### (2) 「知育えほん」

- ・ひらがなをタッチしてものの名称を完成する。できたら音声が出る。
- ・音声の後に自ら復唱できた。音声も子どもの声で良い見本となった。

### (3) 「Percussions」

- ・色々な楽器がタッチやスライドで音を鳴らすことができる。
- ・色々なところに触ってしまい上手く音が鳴らなかったの、指の部分だけ穴を空けて出せるように手袋を使用したら指先で上手に鳴らせた。

### (4) 「空想どうぶつ」

- ・型紙を選んで、それに色を塗ることができる。はみ出た部分は自動的に消去できる。できた作品は登録をして、他の作品と並べて見ることができる。
- ・自分の作った作品とそれ以外の作品と並べられることがうれしそうだった。

### (5) 「Talking Tom」

- ・キャラクターに話しかけると音質を変えて返ってくる。タッチするとキャラクターが動いたり、画面が変化したりするなど反応がある。
- ・声を出すことが苦手な子どもが積極的に声を出すことができた。

### (6) 「Pocket Pond」

- ・池の水を触るとパチャパチャと音がなり、水面が揺れる。
- ・視覚的に弱い子どもが水の音を聞いてiPadに自ら手を伸ばし、繰り返し触ろうとする姿が見られた。